

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 教授

氏名 大倉健宏

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバスに記した内容について、学生の理解を前提として、教授することに責任を負っている。社会学概論以外はいずれも社会調査の方法と実践についての科目である。この点では社会調査士養成について責任をもって担当している。受講した学生が将来質問紙による社会調査を行う際に必要な知識を身につけることについて責任を有している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
社会調査入門	環境科学科	選択	1	40
社会調査法	環境科学科	選択	1	20
地域コミュニティ論	環境科学科	選択	2	6
社会調査実習Ⅰ	環境科学科	選択	3	7
社会調査実習Ⅱ	環境科学科	選択	3	9
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	80
環境保健社会科学特論	獣医保健看護学科	選択	1	2
環境調査演習	獣医保健看護学科	選択	1	0
質的調査演習	獣医保健看護学科	選択	1	0
環境保健社会科学特別演習Ⅰ	獣医保健看護学科	選択	2	0
環境保健社会科学特別演習Ⅱ	獣医保健看護学科	選択	2	0
環境保健社会科学特別実験Ⅰ	獣医保健看護学科	選択		0
環境保健社会科学特別実験Ⅱ	獣医保健看護学科	選択		0

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育理念としては学生が、腹にストンと落ちるような、自前の理解を構築することが大切と考えている。社会調査関係の諸テキストをとりあげているが、学生にとって興味の沸くような素材を用いることが大切と考える。環境科学を専攻する学生にとっては、測定機器を用いて分析することが環境科学と考えているかもしれない。環境は市民の意識を対象とするものであるので、社会調査の方法は重要なものであることを教えたいと考えている。

アニマルサイエンスを学ぶ学生にとっては、ヒトと動物の関係を考えることはヒトとヒトの関係を学ぶことであると理解してほしい。社会学概論を学ぶフードサイエンスを専攻する学生にとっては、文化やコミュニティの観点でフードサイエンスを考えてほしいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育には即効性のある効果と遅効性の効果があると考えます。理系志向の学生に社会学てきな視点や社会調査の考え方と実践について教えることは、後者であると考えます。麻布大学では社会調査士養成をはじめて15年になる。その間110名を超える資格取得者を輩出したが、職業生活において資格と知識を活かすことがあると考えて教育を行っている。

すべてが遅効性では効果を把握することはできない。そこで両者の中間的な位置づけを見出すことを心がけている。それは授業にて扱った内容を学生がイメージ化できることである。このために重要な概念などを説明する時、例示や例えを多用することになっている。多分例えの内容が、世代的にうったえないものなのであろうか、学生に響かないことがある。この点については、時事的な内容を心がけブラッシュアップを怠らないようにしている。

3年生の社会調査実習Ⅰ・Ⅱでは、社会調査にて得たデータをどんな形であれ学生が卒論に記すことができればと考え、そのように指導しているが、地域社会学研究室学生を除いては、実際に位置づけてはいない。相模原市選挙管理委員会での選挙人名簿からのサンプリングは受講学生にとって貴重な体験となるものと考えている。卒論においてある物質を定量的に扱うとしても、その物質の利用についての意識を聞くことは補助線になりうらと思うが、なかなか困難である。この点については、学生がとりあげる同実習のテーマが、関心あるから調べました式の、小学生の自由研究になってしまっていると考えられる。貴重なデータを多段階で利用することは繰り返し強調したいと思う。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

社会調査実習において市民対象のアンケート調査を実施した。7名の学生が合計回収票134票を分析している。学生自身が課題を考え、仮説を構築し、質問または質問紙を用意し回答を得て、分析を行っている。

(2) ICTの教育活用

無

教材の提示、課題の回収と評価、出席管理などでしか利用していない。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

①教育（授業、実習）の創意工夫

理系研究を指向する学生に社会学や社会調査について関心を持つように、これまでも話題の選択に創意を試みている。1年生科目は選択科目であり、興味関心を持つ学生の割合が増し、創意工夫が響くようになった。

②学生の理解度の把握

期末試験と課題、小テストという方法を用いているが、評価には通じるが理解度の把握といえるようになった。

③学生の自学自習を促すための工夫

調査を実施する科目では課題が多くなるため、学生が課題に取り組むことが多い。

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回課す課題をチェックしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

この回答は科目によって異なる。講義科目である社会学概論は最も機会が少ない。実習演習科目では十分に供していると思う。これらの科目では次のステップを示して、課題を報告させ評価を行っている。同様にしたいと考えるけれども、確実な工夫はなかなか難しい。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

個別の回答も必要であると考え。全体で共有するために、口頭でリプライすることが多い。

（５）双方向授業への工夫

C

実習・演習科目では前問と同様である。これについては十分と考えるけれども、講義科目では具体的な工夫が形にできていない。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

予習復習が不足しているという結果である。課題のボリュームを増し、異なるアプローチでの出題を心がけた。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

単位取得率が向上した。受講生のGPAが上昇した。一方で出席0回の学生がいたことは課題と感じている。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

選択科目についてはオリエンテーションの回に、履修意思を明確にするように導く。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

課題へのリプライの増加、内容の振り返りの充実、動画視聴にかわるサマリーの作成を行う。

**(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック**

履修率とGPAによりヒヤリング対象だった科目が対象から外れた。授業評価スコアのうち、
自学自習についてのスコアが上昇した。その他については明示するものがない。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

欠席なく出席している。時間的に重複がある場合は動画を視聴している。しかしながら、参
考にならない内容もある。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

苦勞している大講義については、履修の条件などを示すこと、まじめな履修態度がないと単
位取得に至らないことを理解させる。学生の興味関心に対して、目を閉じているとは思わな
いが、興味ある内容で授業のなかで扱える内容について、リサーチを行う。もっとも大きな
決意は、このぐらいでいいやと自分自身が思わないこと、少しでも改善の余地を見逃さない
ことである。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生による授業評価結果、社会調査実習報告書における学生コメント、ヒヤリング対象科目
数